

私 は こ う 考 え る

「私の考える中心血圧」

プランナー

東京医科大学第二内科 山科 章

1896年にイタリアのScipione Riva Rocci (1863-1937) が上腕カフを用いた水銀圧力計による血圧測定法を考案して以来、血圧測定は一般的に上腕動脈で行われている。簡便なこともあり、上腕動脈で計測した値が血圧値として、一般診療、疫学研究あるいは臨床研究において長く用いられてきた。しかし、心臓や主要血管に直接的に負荷をもたらすのは上行大動脈や頸動脈などの中心血圧であり、その重要性がASCOT-CAFE studyやStrong Heart Studyで明らかにされて以来、中心血圧が注目されてきている。簡便な中心血圧測定器が市販されたこともあり、その概念も普及しつつある。中心血圧こそが血圧であり、上腕血圧にとってかわるべきだという高名な高血圧研究者もいるなど、パラダイムシフトもおきつつある。そこで、本企画では中心血圧は上腕血圧にとってかわるべきものなのかどうか、我が国を代表する血圧研究者のご意見を聴かせていただくことにした。